

表紙の作品について

作品名「S(h)ake!」JRタワー ART BOX一般公募優秀賞受賞作品(2015)
人が行き交う公共空間、止まることなく流れる川、時間。何気なく過ぎる一瞬にも凄まじいエネルギーが込められています。サケの躍動感は、過去の流れと、これからへの躍進を予感させます。一川で生まれて、海へと渡り、生まれた川へと還る—その繰り返しは激しく、命をかけた道のりであり、とてつもないエネルギーの集合です。その一瞬を切り取ることで、毎日を“Shake(振り動かす)”するような、力強さを見る人に見つけてもらえたと思ったらと思いました。身近な素材である段ボールは日常の象徴です。空間、モチーフ、そして素材。それぞれの持つ意味がひとつとなることで、足を止めて作品に意識を向けたときに、繰り返しの中にあるエネルギーを再発見して頂けたらと思います。

作者紹介

吉田 傑 (よしだ すぐる)

札幌市立大学デザイン学部デザイン学科コンテンツデザインコース4年。
身近な素材を用いた工作中興味を持ち、動物などをモチーフとした段ボールによる造形物を制作しています。作品と共に通ずる制作コンセプトは「触れる」であり、作品と見た人の間に生まれる素直な感情や、膨らむ想像を大切にしたいと考えています。

札幌市立大学
附属図書館
ニュースレター

の ほ ほ ん



ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史

札幌市立大学 附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

編集後記

▶ デザイン学部准教授 武田亘明

人はだれでも、人生を歩むなかで、幾度も転機を迎えます。選択に悩んでいるとき、一歩踏み出そうするそのとき、周囲には支えてくれる人がいて、手にとった書物のなかでは時代や空間を超えた出会いがありました。そして、励ましや勇気を与え、考えるヒントとなる言葉、ト

ンネルの向こうに灯る明かりへと導いてくれる教えがありました。あのとき背中を押して決断を導いてくれた人生の原点とも言える一冊の本とその思い出を持ち寄ることで、今一度考える機会となることを願って「私の原点」として特集しました。

予測不可能な変化の激しい社会を生き抜くために、日々悩み、選択し決断を繰り返すことが求められる現代。時間と空間を超えて今を支える一冊の本。人生の起点となった原点の一冊を共有して、もう一度勇気を湧き立たせたいと思います。

札幌市立大学附属図書館ニュースレター

のほほん第10号

編 集 札幌市立大学図書館運営会議

編集委員 武田 亘明 菊地ひろみ
神島 滋子 松永 康佑

松井 美穂

発 行 日 2017年1月20日

発 行 札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局 地域連携課 図書館担当
TEL.011-592-2346

制作・印刷 三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@jimu.scu.ac.jp



見やすいユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



吉田 傑 『S(h)ake!』

特集 「私の原点」

読書の原点

札幌市立大学附属図書館長 教授 ————— 山本 勝則

「いつかきっと！」

札幌市立大学デザイン学部 大学院デザイン研究科 教授 — 安斎 利典

看護の視座で視ること

札幌市立大学看護学部 大学院看護学研究科 教授 — 小田 和美

野崎孝訳『ライ麦畑でつかまえて』

札幌市立大学デザイン学部 准教授 — 松井 美穂

人間の心の複雑さ～“影”について

札幌市立大学看護学部 講師 — 藤井 瑞恵

「数学」—この究極の翻訳機能

札幌市立大学デザイン学部 大学院デザイン研究科 准教授 — 三谷 篤史

原点に出会う

札幌市立大学看護学部 助産学専攻科 助教 — 石引かずみ

卒業研究から研究者としての原点を探る

札幌市立大学教育支援プロジェクトセンター 特任助教 — 斎谷 祐介

学生の本にまつわる話

新図書館システムの導入による効果と期待

カウンターの内側から紹介図書

芸術の森キャンパス・ライブラリー企画展示

『樹を旅する物語』

図書館貸出・視聴ランキング

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

読書の原点

札幌市立大学附属図書館長
山本 勝則

筆者紹介
札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科
精神看護学領域 教授
シミュレーション、コミュニケーションと他者理解、メンタルヘルスなどの研究・教育に取り組んでいます。



『のほほん』の記念すべき10号のテーマは「私の原点」です。そこで、これまでの読書体験を振り返って、私の読書の原点を探してみました。そして、第一の原点は『海底二万海里』であることに気がつきました。私は小学校5年生まで勉強もせずに走り回ってばかりいました。ところが、虫垂炎で手術を受け、一時期大人しくしていました。その頃、小学校の図書室でこの本に出会いました。この本は1870年にフランスで出版されたSF冒險小説です。最初の日本語訳は1956年の出版で、その後、2012年まで10人による訳本が出ています。著者や主人公よりもネモ船長の名前が有名で、映画化も何度かされています。この本を読んで、世の中にこんなに面白いものがあるのかと驚きました。本の面白さに気がつくという意味での私の原点はこの本です。

第二の原点は夏目漱石の『こころ』です。中学3年のときに読みました。強い印象と、分からなさ（作者の意図を読み取れない）とを、同時に感じました。そしてこれ以後、純文学に傾倒し始めました。思春期後半から青年期前半に生じる特有な心理状態によるものだらうと思います。この本を第二の原点とする理由はもう一つあります。作者の意図を読み取りたいという思いがあったので、10年後にもう一度読みました。すると、小説を読む視点が変わり、まるで別の小説を読んだかのような読後感を持ちました。最初に読んだときは語り手である「私の視点で読んだのですが、二回目に読んだときは、「先生」の立場に立って読んでいました。

第三の原点は、『いきいきと生きよ』という本で、ゲーテの様々な著作から抜粋し、箴言とその解説の形でまとめたものです。著者はドイツ文学者として名高い手塚富雄です。自分はどこへ向かえば良いのだろうか？と迷っていた時に読んだ本です。本の題名に惹かれて読み始め、冒頭の記述から、深く引き付けられました。ところが、三分の一程度まで読み進めて、そこで止めてしまいました。本の良さは分かるのに読む気にならないという、不思議なジレンマを体験しました。その後いつか読もう、

読まなければならぬと思いながら30年以上が過ぎました。そして、ついに読むべきときがやってきました。それが今、この原稿を書くために読むのがそのときです。

今度こそと思って読み通しました。そして感じたことは、当時の私の力では十分に読み取れなかった、つまり、猫に小判状態だったと気がつきました。そして、今度はどうにか理解できたと感じています。箴言をいくつか紹介しますので、味わってみてください。傍点による強調は、私が付しました。

「何事も延期するな。なんじの一生は不斷の実行であれ」「正義は広い領域を占めるが、心の善良さはより広い空間を占有する」「旅行者というものは多くのことを享受するために多くのことを断念する者である」「人間のことは考えるな。事柄を考えよ」後の二つの箴言については、山口伸美の『大学教授がガンになってわかったこと』で述べていることと共通性が見られるので紹介します。「お世話になった主治医のもとを去るのは勇気がいる。でも、しっかりと時間をさいてあなたが納得できる別の医者を探しましょう！」「病気にに関してはそうした義理・人情を取り扱って別の病院で診てもらう決断が必要です」

これまで私の読書の原点について述べてきましたが、読書にも人生にも共通すると思う原点の意味について、一言で述べたいと思います。それは、「原点は今こことの関係で意味を持つ」ということです。私たちは今ここで生きています。原点は、今ここに影響しているという意味でしか意味を持ち得ません。

書籍情報

- 夏目漱石『こころ』青空文庫, 1914
- 手塚富雄『いきいきといきよ』講談社現代新書, 1968
- 山口伸美『大学教授がガンになってわかったこと』幻冬舎新書, 2014



札幌市立大学デザイン学部 大学院デザイン研究科 教授
安齋 利典

筆者紹介
製品デザイン／人間情報デザインコース 教授
電機メーカーのデザイン部門、宣伝部門を経て2015年度より現職。製品デザイン、デザインマネジメント、ヒューマンセントラードesign、ウェブデザイン等を専門とし、教育と研究に従事。最初は「先生」と呼ばれて違和感というか、ほかの誰かに声をかけていたものと思っていたが、慣れてきました。しかし、この雪に慣れることができるか？早く、分野と地域に根ざした成果が出来るようにしたいと思います。

ときどき几帳面に見られることがある。本人も計画的にものごとを進めて、整理整頓したいほうである。A型に見られることが多いが、実はO型。残念ながらけっこうずばらである。会社に入社したときに、3年ほど上の先輩に「大雑把なO型」といわれた。指摘した先輩は、もちろんA型。いろいろなことができぱさとできる先輩で、今でも尊敬している。そういう人になれないものか。

話はさかのぼって、「大雑把なO型」といわれた5、6年前。相変わらず、そのころも、思ったことが思うようにできない。「いつかきっと、いつかきっと！」の“いつか”が、“いつ”になんて“いま”にならない。そんなことを思っているときに、この本に出会った。

たいてい買った本の扉や見返し、奥付辺りに購入日を書き込んであるのだが、この本は“0413”としか書かれていなかった。昭和53年3月10日第3版発行なので、多分、昭和53年、1978年の4月13日に買ったものと思う。大学3年になった頃、やりたいことがいっぱいあるのになかなかできなかつたから、この本を買って、いろんなことをやれるようにしたいと思ったのに違いない。

読んでみて、いわゆる「目から鱗」であった。目標をつくり優先順位をつける。あたりまえだが、それができていなかった。全てを書き出して見える化する。そして最も重要なものを3つ選択する。最初は、それは無理だと持った。しかし、やりたいことを整理して限定しないと、虻蜂取らずで何もできない。そこまでの人生で証明済みであった。何度もトライして、やることを削ぎおとし、重要なものに焦点を当てる。が、いつの間にか元の木阿弥。「いつかきっと！」の“いつか”が、“いつ”になんてやってこない状態に。なんて意思が弱いんだ。

学生時代、社会人になって、何度もやりたいことの選択をしなければならなかった。その都度、この本のことを思ったり読み返したり。改めて手にとって見てみると、この本にはたくさん線が引かれ、メモが書かれてある。年を取るにつれて、そ

んなに計画的な仕事や人生は無理なのだ。いや、良い加減（よいかげん）でいいんじゃないのか、と思うようになってしまった。

しかし、好機というか転機というか、効果はやってきた。最後にこの本を意識したのは、学位論文。学位を取ろうと考えたときであった。本格的に論文を書こうと思った際には、本書に従い、絞った。そのときの目標はただひとつ。もちろん仕事をしながらなので、仕事の目標もあるのだが、優先順位の一番目は論文執筆であった（以前の会社には内緒です）。最も重要な3つの目標は、「論文」「会社の仕事」「生活」。上司には「チャレンジは良い」ただし「仕事の邪魔になるな」「会社に迷惑をかけるな」と言われた。けっこうこまめに手伝っていた家事も、妻に理由を説明して免除してもらい、親戚も含めた家族の行事も極力参加を控えた。日々の積み重ねが大事だが時間が取れないとにかく時間と机とPCが欲しかった。背に腹は変えられないでの、最後の手段は通勤電車をグリーンにして、座ってPCと格闘。

集中作戦の強行突破策が功を奏して、予定より早く学位が取れた。予定とは、役職定年。多くの企業が中間管理職に年齢制限を与え、ある年齢で役職から外れることとなる。その前に学位を取得し、本学に移ることができたのは、長年、本書どおりにできなかつたことが、やっと実践できたからであろう、と後になって考えた。ヤングの「ユーレカ」やポアンカレの「啓示」のように、頭の隅っこに本書の教えが残っていたのかもしれない。

あっという間にもうすぐ還暦。「青年老い易く学なりがたし」。身にしみて感じる。また、目標を整理し、優先順位をつけて、やってみよう。「いつかきっと！」の“いつか”を“いま”に変えることができた、私の原点のひとつである。

さて、「いつかきっと！」

書籍情報

- アラン・ラーキン著、千尾将訳、『時間管理の法則』
実務教育社、1978

看護の視座で視ること

札幌市立大学看護学部 大学院看護学研究科 教授
小田 和美

筆者紹介

成人看護学領域 慢性期看護学 教授
慢性病、特に糖尿病とともに生きる人々とその家族のセルフケア支援を探求するとともに、慢性期看護を可視化すること、教育することの難しさも痛感している。
あきらめずに、慢性病の人々がしたたかに生き抜くことに貢献したいと考えている。



イラスト
デザイン学部3年
吉田 香織

「パラダイムが違うから」と彼女はよく言っていた。私と彼女は馴染みのない地方で大学の看護学科の助手をしており、よくファミレスで遅い夕食をとりながらアカデミックであることやら研究やら地方の文化やらあれこれと話したものだった。今の看護大学の開学ラッシュが始まる少し前のことだ。彼女は、アメリカ式教育の看護大学の大学院を修了したての地域看護学の教員で、統計を駆使した量的研究得意としていた。私はといえば、大学院修了後に再び看護師として臨床現場に戻り、現場のカオスにどっぷりと浸かったまま教員となって慢性期看護学のカオスのなかにいた。

当時、看護学における研究は、看護学科が医学部の中に設置されることも多いこともあって、過剰に自然科学であることを要求され、研究者はそれをいかに論破するかということにも大きなエネルギーを注がねばならなかった。しかしながら、看護の微妙で細やかな現象をすくいあげる細かな網の目をもつ方法として、質的研究はなくてはならないものであると考えていた研究者は多かった。とはいえ、当時の看護学の領域では、量的研究を行う研究者は量的研究しか行わず、質的研究を行う研究者は質的研究しか行わないというのが一般的な考え方だったようだ。

そこで便利な言葉が「パラダイム」paradigmであった。「パラダイム」とはプリンストン大学教授であったトマス・クーンが提唱した概念で「一般に認められた科学的業績で、一時期の間、専門家に対して問い合わせ方や答え方のモデルを与えるもの」として、その領域の思考の枠組となるものである。彼女は、量的研究と質的研究は、思考の枠組が違うから、相容れないものだと言っていたのである。看護のカオスを解明することが看護学研究の使命だと考えていた私は、量的研究でも質的研究でも、研究課題を解明するのにより適した方法を使えばいいのではないか、何なら両方使えると考えていた。が、このような考えは當時主流ではなかった。

数年後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 UCSF で研

修として高齢糖尿病患者の研究グループに参加する機会があった。このときの研究は、量的質的両方の研究方法を用いており、トライアンギュレーション triangulation といわれていた。今やひとりの研究者が量的質的両方の研究法を使うのは当たり前のことである。この経験は、自分の専門とする看護学の視座で視えたものについては探求すべきということであった。

その後、再び大学院に戻った私は、看護学研究のカオスの海でもがいていた。指導教授は、常日頃、研究法を開発しながらするものと豪語していた。「東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ」をどういった経緯で手に取ったのか、その記憶はまったくないが、その頃、手にした本である。

著者の遙洋子は、大阪出身で関西のテレビを中心に活躍しているタレントだが、関西出身の私は知らなかった。日本の文化では女性は若くカワイイことに価値がある。よって、テレビ業界では年齢が上がると女であることが揶揄され、ネタにされる。この本は、そのような業界人の遙洋子が、東大の上野千鶴子の下でジェンダー論を学んだ3年間のことを書いたエッセイである。学問世界の住人でない一個人が、その業界の第一人者といわれる研究者から学ぶさまが、学問世界の住人である大学院生たちとの交流とともに易しい言葉で描かれる。エッセイなので非常に読みやすいが、「探求する」ことの深い含蓄を感じ、気合が入る。

「後発の学問の研究者はほとんどが独学」とある。研究においても、教育においても、看護において見えるものは何か、見るべきものは何かと、常に考え続けている。何を、どの広さで、どの深さで…「看護の視座」に立ったときに見える直感を信じて探し続けたいと思う。

書籍情報

遙 洋子著『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』 筑摩書房,2000

野崎孝訳『ライ麦畑でつかまえて』

札幌市立大学デザイン学部 准教授
松井 美穂

筆者紹介

デザイン学部 共通教育 准教授
専門は、アメリカ文学研究、ジェンダー研究。特に研究しているのは、アメリカ南部出身の作家、ウィリアム・フォークナー、カーソン・マッカラーズなど。



イラスト
デザイン学部3年
柴野 未郷

私の専門は、アメリカ文学、特に20世紀の小説です。この道に入る第一歩は、英語が好きで、小説を読むのが好きで、なおかつ洋楽や外国映画、アメリカのテレビドラマが大好きだった、ということでしょうか。

そういうわけで、これまで読んだ小説の数もそれなりにあるのですが、文学研究を仕事とするに至った道のりを考える上で大きな影響を受けた、と思われるものが、野崎孝訳の『ライ麦畑でつかまえて』(The Catcher in the Rye 1951年出版。この翻訳の出版は1964年)です。この小説は出版以来、世界中で多くの(特に若者)読者を獲得し、日本では2003年に村上春樹が新訳を出したことで話題になりました。

この野崎訳『ライ麦畑』を初めて読んだのは、私の記憶が正しければ、確か高校生くらいの時。その頃の日本の中・高校では、校内暴力が問題となり、若者が荒れていた時代でした。私は比較的校則の厳しい学校に通っていたのですが、校則に反抗するような根性も気力もないものの、規則とは何なのか、まゆげより前髪が長いことにいたい何の意味があるのかと、密かに悶々と考える日々でした。そんな時、当時の学校や学生の状況を取り材した新聞記事の中の、ある高校の先生が『ライ麦畑』を読むよう薦めた、というエピソードが目にとまりました。すぐに本屋に行ってその本を買いました。

読んでみてびっくりしました。そこには、これまで読んだ翻訳小説とは違う世界があったのです。ストーリーは、高校を放校になった少年がニューヨークの家に帰るまでに体験した出来ごとを語るというもので、一般的には欺瞞的でインチキ(phony)な社会に対する少年の抵抗の物語と解釈されています。野崎訳ですと、こんな風に始まります。

もしも君が、ほんとにこの話を聞きたいんだな、まず、僕がどこで生まれたかとか、チャチな幼年時代はどんなだったのかとか、僕が生まれる前に両親は何をやってたかとか、そういった《デーヴィッド・カバーフィールド》式のくだらないことから聞きたがるかもしれないけどさ、実をいうと僕は、そんなことはしゃべりたくないんだな。第一、そういうことは僕には退屈だし、第二に、僕の両親てのは、自分たちの身辺のことを話そうものなら、めいめいが二回ぐらいずつ脳溢血を起こ

しかねない人間なんだ。

(J.D. サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』野崎孝訳、白水社、p.5)
こういった口語的な語り方は現代の小説では特に驚くほどのことでもないのですが、心の中で「インチキ野郎」と言い放ったり、「気が滅入っちゃうんだよね」と呟いたりするその語り口に、当時の私は一挙に物語にひきつけられました。そして、社会(学校、親)と個人との関係の中で滑稽なまでに、といつていいくらい、もがいている主人公の姿にも、何か感じるところがあったのだと思います。

しかしながら、それにもまして驚いたのは、読み終わったあと、全然すっきりしない自分がそこにいたということでした。読後は「何これ、どういうイミ?」ということで頭が一杯。一体、このエピソードを、この結末を、この小説自体をどう解釈したらいいんだ?・・・欲求不満の塊となった私は、どうしてもイミが知りたくて、当時札幌で一番大きな本屋で、文学評論のコーナーがあった旭屋書店に行って、サリンジャーの批評書を探しました。結局、ほとんど批評書はみつからず(今ではサリンジャーの研究書は日本語でもたくさん出版されています)、何かわかるかと他のサリンジャー作品もいろいろ読んだのですが、わかるのかわからないのかもよくわからないまま時は過ぎ、なんとか大学に入ったころには、すっかりサリンジャーは過去のものとなり(ちょっと英語で読んでみようかな、とは思ったのですが)、さらには卒論を書く時にはどういうわけか、もっとわけのわからない(難解な) ウィリアム・フォークナーという作家を選ぶことになったのでした。

ということで、現在の私は、文学作品と格闘し、その成果を学会で発表したり、論文を書いたりすることに多くの時間を費やしています。格闘の度に消耗は激しいのですが、やはり自分なりに答えを少しでも見いだせた時には大きな喜びもあります。そしてそれが、この複雑な社会を理解するための一助となることを願っているのです。

書籍情報

J.D. サリンジャー著、野崎孝訳『ライ麦畑でつかまえて』
白水社、1964

人間の心の複雑さ～“影”について

札幌市立大学看護学部 講師

藤井 瑞恵

筆者紹介

成人看護学領域 講師
慢性期看護学。食事や歯磨きなどの生活習慣と糖尿病・高血圧・慢性腎臓病の発症予防、重症化予防の関係と、その結果を看護に生かすための活動をしている。



イラスト
デザイン学部3年
塙田 茉利衣

「私の原点」というテーマをいただき、時々繰り返し読みたくなる本として河合隼雄先生の著書が思い浮かんだ。河合先生は臨床心理学の大家で、京都大学を退官後もご活躍されたが、既に鬼籍に入られた。

私は看護師・看護教員のキャリアを積む途上、ある時期に大学で心理学を学んだ。動機は、看護師になって年数は経過したが、自分の知識や経験だけではベッドサイドの患者さんの気持ちにいまひとつ寄り添えない無力感があり、人間の心の仕組みをもっと知りたいと思ったからである。社会心理学の先生の下で対人コミュニケーションを学んだが、臨床心理学にも魅かれ河合先生の本をよく読んだ。河合先生に直接お目にかかったことはないが、マスメディアを通しての講義やインタビュー、数多くの著書で親近感を持っていたので、「先生」と呼ばせていただく。

河合先生はユング心理学をベースに、人間の無意識の世界を古今東西のファンタジーを用いて解説されている。また人間の存在につきまとう「影」を、避けて通れないテーマとして取り上げている。人には影がある。影は光をさえぎってできる黒い部分で、自分の姿が光と闇のマジックにより映されたもの。しかし影は、姿・形のみならず、投影された心象として現れる。それは自分が見落してきたこと、蔑んできたこと、排除してきたことの全てである。

児童文学の『ゲド戦記』をご存じの方も多いだろう。第1巻は自己実現がテーマであり、大人向けに出版された本のタイトルは“影との戦い”である。河合先生の解説を参考に要旨をまとめると、世界の果てのアースシーという場所に暮らす「ハイタカ」と呼ばれた魔法使い、真の名前「ゲド」の物語。魔法の修行中、自分の能力を過信したゲドはライバルにそそのかされ、死んだ人間の靈を呼び出したが、同時に死の影も飛び出した。ゲドが開けた死者と生者の境界を閉めるために師の1人が死ぬ。光と闇、生と死、善と惡などの均衡を保つことが魔法使いの仕事なのに、心の成長が伴わないゲドは力づくで均衡を壊してしまった。そして出てきた影に追われることになった。ゲドはやがて影から

逃げるのを止め、最後に影に向って自分の真の名を呼び、影を統合した。

次に私が過去に対人関係で苦労した体験をゲド戦記風にまとめてみる；仕事で「2人で1つ」の成果を求められた。一方が手抜くとその分だけ他方に負担がかかる。2人の力がアンバランスなので、余力がある方が補足することになる。相手は他方への感謝はおろか負荷をかけていることも顧みず、自分の成果だけを追いかけた。力のバランスの絡繰りは蚊帳の外にいるものにはほとんど理解されないまま、その状態が数年続いた。相手へのいら立ち、怒りだけが拡大して周囲に伝わり、いたまれなくなり、私のアースシーから飛び出した。

しばらくしてから私も「影」を用いて意味づけしてみた；かつての相手は他人のひんしゅくを買ながらしか仕事ができなかつたのかもしれない。閉じられた世界で先の見通しが立たない中、私は鬱れあがる負担への苛立ちから自分で自分の影を呼び出し、それに苦しんだのだろう。環境を変え視点も変わり、清濁併せ飲むこと、つまり影と折り合いをつけることを知り、あの時は仕方がなかったのだと自分なりに納得した。

臨床心理学の難しい概念を知らないでも、ファンタジーと秀逸な河合先生の解説を読むだけで自分の類似体験が蘇り、追体験により気持ちが癒やされる。このような本の読み方も時には悪くないと思う。

書籍情報

- アーシュラ・K・ル=グウィン著、清水真砂子訳『影との戦い』
同時代ライブラリ 岩波書店、1992
- 河合隼雄『影の現象学』講談社学術文庫、1987
- 河合隼雄『人間の深層にひそむもの』大和書房、1982

「数学」－この究極の翻訳機能

札幌市立大学デザイン学部 大学院デザイン研究科 准教授

三谷 篤史

筆者紹介

製品デザイン／人間情報デザインコース 准教授
専門はロボティクス・メカトロニクス。口腔ケアシミュレータの開発などの研究に従事。趣味は自転車、塗、うどん、お好み焼き、時々アクアリウム。ちなみに料理も、「レシピ」という方程式に「食材」という変数に代入し、「調味料」という係数を掛け合わせ、「調理する」行為を足し合わせることで、「料理」という解を求めるという、まさに数学(サイエンス)の範疇だななどと思っている次第。



イラスト
デザイン学部3年
吉田 香織

この「私の原点」というテーマをいただいたとき、真っ先に頭に浮かんできたのは「数学」というキーワードであった。というより、他に何も思い浮かばなかった。したがって、趣旨と合致するかどうかは考えずに、「数学」というキーワードで筆を進めてみようと思う。皆さんにとって「数学」とはどのような存在だろうか？おそらく中学校で「算数」にかわる教科として「数学」が出現し、それ以来、方程式や代数演算、図形の問題など、「何の役に立つの？」と疑問に抱きながらも、受験のため仕方なく勉強してきたという人もいることと思う。しかし、私は「数学」こそが人類の睿智であると考えている。

私の専門分野はメカトロニクス（電気電子や機械技術に情報（コンピュータ）技術を融合させて機能の自動化・高機能化を図る複合技術）である。その最も基本となる学問は「物理学」であり、その中でもとりわけ物体の運動の法則性や規則性を記述した「動力学（運動の法則）」は最重要項目である。これは「ニュートン力学」とも呼ばれているが、その法則性はニュートンよりも以前に発見されていた。ニュートンのすごいところは、それら法則性や知見を、数学的記述を用いて体系的にまとめた点にある。あの伝説的な逸話になぞらえれば、「リンゴ」が落ちるという現象に「すべての物体は重力を受ける」という普遍的な法則性を見つけ出し、その法則性を数学的手法によって解析し、誰もが証明可能な普遍的数学的表現へと変換した、ところに集約される。ここで重要なのは、この過程において「数学」が、いわば自然現象を「翻訳」するためのツールとして使われている点にある。このニュートン力学はさらに一般化されており、惑星の運動や引力まで対象とした万有引力の法則から、アインシュタインの相対性理論に代表される量子力学に至る、まさにマクロからミクロまでのすべてのスケールに関する運動の法則性が数学的に「翻訳」されるに至っている。この数学の普遍性については力学にとどまらない。たとえばユークリッド幾何学の一つである三平方の定理は、正方形や直方体をはじめ、すべての多角形が複数の三角形の組み合わせによって構成できることや、円や曲線を持つ图形についても微小な二等辺三角形の集合体で近似できることを考えれば、この世において形を持つあらゆる構造体

がこの三平方の定理で記述可能である。すなわち、この定理は形を持つものの最も基本的な共通概念というべき性質を抽出したものである。

この数学の根本的な役割と重要性に気づいたのは大学院に入ってきたからだったと思う。私の研究の第一段階は、数学的思考を使って様々な事象から普遍性・法則性を見いだし、数式に翻訳していくことである。なぜなら、コンピュータ技術を活用するにあたっては、すべての事象を数値で表す必要があるからである。逆に言えば、この世のどのような事柄であっても、数学的表現で表すことができれば、自動化・高機能化の可能性が芽生えるのである。「初めちょろちょろ中ぱっぱ 赤子泣いてもふた取るな」という唄は、かまど炊きご飯における火加減を示すものとして口承的に伝えられてきたものである。それではこれを聞いておいしいご飯を炊ける人はどれだけいるだろう。しかし我々は、「自動式炊飯器」を使っておいしいご飯をいとも容易に炊くことができる。これは、「米をおいしく炊く」という行為に規則性を抽出し、数学的法則（すなわち加熱や蒸らしの温度や時間）を当てはめることに成功したからこそ実現されているのである。本学が目指すD×Nの研究においても、当然ながらこの考え方を適用することが可能である。たとえばケアのプロセスや手技には明らかに数学的法則性で表せる要素が含まれており、実際にそのような研究を進めている次第である。

と、ここまで筆を進めてきて、紹介すべき本について全く考えていないことに気がついた。一般的な数学や力学の専門書を紹介するのは趣旨から外れる気がする。そこで、私がこれまで読んできた図書のなかで、一見関係なさそうな内容ながら数学的法則性がなんとなく感じられたものを紹介しておこうと思う。

書籍情報

- 松本修『全国アホ・バカ分布考-はるかなる言葉の旅路』
新潮社、1996
- 竹村公太郎『日本史の謎は「地形」で解ける』
PHP研究所、2013

原点に出会う

札幌市立大学看護学部 助産学専攻科 助教
石引かずみ

筆者紹介

母性看護学領域 助教
助産師として9年間臨床で経験を積み、茨城県立医療大学大
学院保健医療科学研究科にて母性看護を学び修士（看護学）
を取得。2014年より母性看護学・助産学専攻科教員として
札幌市立大学に在籍する。
母子および家族にとって安心・安全・快適なマタニティケア
システムの構築を目指して研究を行っている。



助産師としての私は、間もなく人生の半分を占めようとしています。そこで今回いただいた原稿依頼の機会を活かし、私のアイデンティティを形成するうえで欠かすことのできない「助産師としての私」の原点について振り返ってみたいと思います。幼い頃から看護師である母の背中をみて育った私は、母のような看護師になることを目標に、大学に入学しました。大学2年生の時、母性看護学の講義にゲストスピーカーとしてある開業助産師さんがやってきました（以後、K助産師）。K助産師は大きなお腹をしていて、お話を聞くと臨月間近の妊婦さんであることがわかりました。K助産師は講義の中で「それでは赤ちゃんの心臓の音を聴いてみましょう」とおっしゃり、その大きな自分のお腹に超音波ドプラ装置（胎児心拍を確認する装置）をあててくださいました。すると「トン、トン、トン、…」と、リズミカルで澄んだ音が講義室の中を響きわたりました。その音を聴いた瞬間、自然と涙が溢れ出ました。「生きてる…。」と初めて全身で生命を体感することができたのです。K助産師のお腹の中にいる赤ちゃんの力強い生命力を感じ、感動したことを今でも鮮明に覚えています。そして、その瞬間、助産師になることを決意していました。これが私の助産師としての原点です。

助産師である自分に迷いが生じた時、壁にぶつかった時、悩んだ時には必ずこの瞬間に思い出している自分がいます。あの瞬間に立ち返り、ただただ命の純粋さや生命のすばらしさに感動した自分に戻ります。そうすることで、自分自身が癒され、励まされ、また助産師として前を向いて進むことができるのです。

そんな私もいつしか自分自身が母となり、1歳と5歳になる息子を大きな声で追いかけまわす慌ただしい日々を過ごしています。最後に本を読んだのはいつだろう…と考えても思い出せません。「仕事・育児・家事」を繰り返す毎日の中でゆっくり読書をするような自分時間ももつ余裕すらないのが現状です。

そんな毎日の中で、唯一本を開く時間は子どもたちが大好きな本を読むひとときです。5歳の息子はとにかくいいものが大好きです。特に「昆虫」に興味があり、この夏我が家にはアリをはじめ、カブトムシ、クワガタ、コオロギ、バッタ、カメムシ、

カナブン、トンボ、蝶々、カマキリ…たくさんの虫たちがやってきました。外に出かけて虫を見つけては家にもって帰り図鑑をみる、テレビで虫が出れば図鑑で探す、夜寝るときは図鑑を読みながら虫の話をする、昆虫図鑑は我が家の一員のバイブル的存在になっています。図鑑には約1400種の昆虫が掲載されていて、昆虫にまつわるたくさんの情報が詰まっています。研究の先端をいく進化のしくみや採集・飼育ページなどの最新情報もたくさん載っており、大人にとっても好奇心をくすぐられる一冊です。

1歳の息子はお兄ちゃんのおさがりの数ある絵本の中から、「いないいないばあ」を必ず手に取って私の膝元にやってきます。この絵本は1967年に日本では初めて本格的な赤ちゃん絵本として誕生してから、今まで約50年間たくさんの赤ちゃんに親しまれてきました。ネコ、クマ、ネズミなどの動物たちが、ページをめくるたびに「ないないばあ」をする、とってもかわいらしい絵本です。

今はまだ子ども中心の日々ですが、子どもたちが成長して、自分時間をもつことができたら、改めて本を楽しみたいなど感じています。そしていつか自分の道標となるような書に出会いえる日を楽しみに、今は最愛なる子どもたちとの読書時間を大切にしたいと思います。

最後に、今回改めて自分の原点について振り返る貴重な機会となりました。人は何か起こった時に自分が立ち戻れる場所や存在すなわち「原点」があると、必ず前を向く力につながると思います。みなさんにもそんな自分の原点を大切にしてほしいなと思います。

書籍情報

『小学館の図鑑・NEO3 [新版] 昆虫』小学館,2014
松谷みよ子『ないないばあ』童心社,1967



札幌市立大学 教育支援プロジェクトセンター 特任助教
籜谷 祐介

筆者紹介

教育支援プロジェクトセンター 特任助教
茨城県デザインセンター、建築設計事務所勤務を経て現職。
現在はCOC事業のコーディネーターとして、真駒内のCOC
キャンパスを拠点に推進する地域志向型の教育・研究・社会
貢献活動に従事。専門は「まちづくり・コミュニティデザイン」。
まちづくりコミュニティの構成員とその役割に着目した構造
分析手法の開発や、遊休不動産を活用したまちづくり手法の
研究を行っている。

にとってその場の質とは何か』です。この本では比喩的に、子どもたちが自由に遊び方を発明する「原っぱ」と遊び方が決められている「遊園地」の2種類に建築を分類できるとし、「原っぱ」のような自由でいたれりつくせりでない空間の重要性を指摘しています。決め過ぎないこの窮屈でない空間には、人の主体性や選択性が担保される余地が内包されています。

私はこれらの本の影響により、人が生き生きと暮らしていく上では、そのような空間が重要だと考えるようになりました。今の私はまちづくりやコミュニティの研究をしていて、扱うテーマは変化してきたように思います。ただ、コミュニティづくりをする際には、先回りし過ぎない、ルールを決め過ぎないとすることが重要で、そのように活動に対する余地を残すことで人の様々な選択が誘発され、アクシデントが生まれ、「主体性」が獲得されると思っています。人が主体性を持って生き生きと暮らしていく環境づくりへの関心が一貫して自分の中にあり、そういう意味で、先に挙げた2冊は私の原点といえる本だと思っています。

このような空間に关心を持つようになったきっかけとして、2冊の本との出会いがあります。ひとつが、アメリカの心理学者 J.J.ギブソンのアフォーダンスという概念を日本に提唱した佐々木正人の『レイアウトの法則ーアートとアフォーダンス』です。アフォーダンスは、環境が動物に与える価値や意味のことで、これを知覚することで人間の行為が生まれます。例えば、水平な地面は歩くことをアフォードするし、その面が膝くらいの高さにあると座ることをアフォードします。この場合、背丈の違う大人と子どもは異なるアフォーダンスを有していて、人間と環境との相互依存性に関係しています。私はこの本をきっかけに、環境と行為の関係性に关心を持つのですが、その中で例えば、同じ「座る」という行為をアフォードする海岸沿いの岩と公園のベンチでは、岩のアフォーダンスになんとなく魅力を感じていました。人為的でない岩に座るというアフォーダンスを知覚する人間の主体性に惹かれたのだと思います。

もうひとつの本は、建築家 青木淳の『原っぱと遊園地ー建築

書籍情報

佐々木正人『レイアウトの法則ーアートとアフォーダンス』
春秋社,2003
青木淳『原っぱと遊園地ー建築にとってその場の質とは何か』
王国社, 2004

図書館の活用方法

札幌市立大学 デザイン学部 製品デザインコース4年
寺岡 桃



イラスト
デザイン学部3年
柴野 未郷

私は文章を読むのがとても苦手なので、昔から小説や文庫本はほとんど読みません。図書館で借りたり本屋で購入したりする本は、デザインに関する参考書や雑誌が多いです。大学生になってから、フリーペーパーやグラフィックデザインの仕事をもう機会があり、制作する立場になったことで、本の見方がかなり変化しました。本には、紙質やレイアウト、文字の大きさや組み方、フォント、カーニング、行間など、本を構成している様々な情報が詰まっています。その情報の構成方法から、本に関わるデザイナーや編集者の工夫や苦労を読み取れるようになりました。それにより、本の内容よりも本自体のデザインが気になってしまう事も多々あります。

最近、デザインは料理に似ていると思いました。素材を揃えて、レシピをつくり、調理する。様々な料理作って経験を積むことで、料理の腕が上がっていくのではないかと思う。様々なものを作ると、自分の得意なことや不得意なことを知ることができます。また、料理の上達には、美味しい料理をたくさん食べることも大切であり、良いものと出会うことも上達に欠かせない事です。デザインにおいて、「美味しい料理を食べる」という行為は、「良いデザインとたくさん出会う」ということではないでしょうか。そのためには、街に出る事ももちろん重要ですが、デザインに関する参考書を読むことも大切であると思います。世の中にはたくさんのデザイン関連の本が出版されています。中には高価なものもありますが、図書館だと購入せずに読むことができます。私はいつも購入依頼を利用して、図書館の良いところは、購入依頼を出した人だけではなく、他の人も読むことができるという点が挙げられます。

書籍情報

筒井美希『なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。』
エムディーエヌコーポレーション,2015
永井弘人『デザイナーになる。：伝えるレイアウト・色・文字のいちばん大切な基本』エムディーエヌコーポレーション,2015



イラスト
デザイン学部3年
角田 笑

最近読んだデザインの本を二冊紹介します。一冊目は、「なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。」です。この本では、編集やデザインをするまでの素材の整理整頓方法や、文字や色の意味、写真についてなど、実例を用いて幅広く紹介されています。デザイン作業で煮詰まった時に読みたくなる一冊です。二冊目は、「デザイナーになる。：伝えるレイアウト・色・文字のいちばん大切な基本」です。こちらは、デザインに対する取り組み方や構えなどが書いてあるので、初めて仕事の依頼をもらった人や、これからデザインについて学びはじめたいと思っている人向けの一冊です。前半に載っている手描きのイラストが可愛いく、シンプルで余白の効いた統一感のある紙面デザインが特徴的です。どちらもエムディーエヌコーポレーションが出版している本で、この会社はデザインに関する面白い本をたくさん出版しています。デザインの参考書を探している人は、ぜひこの会社の本を読んで欲しいと思いました。

科学や情報の技術が加速度的に進化し、人間のライフスタイルが日々劇的に変化している現代において、人としてより良く生きていくとき、その道しるべとなるのは歴史的な偉人の言葉である。それはまさに私の原点となる、ある一冊の本にも言えることである。マザー・テレサの貧民救済活動と当時のカルカッタのスラム街を撮り続けた、一人の日本人の報道写真家が執筆した本である。「マザー・テレサ あふれる愛」（沖守弘著、講談社）では、マザー・テレサの言葉だけでなく、当時の社会問題が記録されている。中学生であった私に衝撃を与え、現在まで忘れられない一冊となっている。

マザー・テレサは生涯にわたり、貧困に苦しみ、死を待つ人々に寄り添い、救いの手を差し伸べ続けた。今から約70年前の話である。当時のインド、カルカッタのスラム街では毎日のように数十人の人々が路上で死を迎えていた。それはまるで地獄絵図のような、想像を絶する環境であったそうだ。

マザー・テレサは「最も悲しむべきことは病めることでも貧しいことでもなく、自分はこの世に不要な人間だと思い込むことだ。そしてまた、現世の最大の惡はそのような人々に対する愛が足りないということだ」という言葉を残している。貧困や飢餓、病に苦しみ、世間に見捨てられ身も心もズタズタになつた人々を死の瞬間まで人間らしくいられるよう、愛を与え続けた彼女の姿が、今の私の歩む道を示してくれる転機となった。

現代の日本においても、孤独死、子供への虐待などが問題となっている。世界に目を向けると、戦争やテロ、難民の問題などが頻繁に報道されている。マザー・テレサが活動していた70年前と現代との間で、それぞれ抱える問題は本質的には変わっていないのではないかだろうか…。現代は繁栄の中に貧困がある。「人々は愛に飢えている」と彼女は言ったが、この言葉は、現代における様々な問題を象徴しているのではないだろうか。私たちの生き方を考えさせられる1冊である。

さて、この先も人生において転機は幾度も訪れるであろう。その度に、悩んだり喜んだり、生きいきとした自分でいたい

自分の原点を見つめなおす

札幌市立大学 看護学部3年
浦口 琴未

と思う。将来の転機のために、集中力や体力をつけたいと思い、最近ホットヨガに通い始めた。ヨガでは同じポーズをとるために正しい呼吸と集中力が必要である。そしてホットヨガの最大の特徴は室内の温度が39度ということだ。1リットルもの汗が流れ、1リットルの新鮮な水で再び自分の体を満たす。通うたびに、自分自身が生まれ変わるような活力を与えてくれるのだ。日々、大学生活と子育てに精一杯になりすぎて、自分を見失うことがないよう、また将来訪れる転機に向けて余裕のある自分でありたいという思いで続けている。そんな中、出会った1冊の本を最後に紹介したい。「座右のゲーテ 壁に突き当たったとき開く本」（齋藤孝著、光文社）は、「ゲーテとの対話」（ヨハン・ペーター・エッケルマン著、岩波文庫）という本から、現代のライフスタイルにマッチするようなゲーテの名言を抜粋し、わかりやすく紹介している。本書にある、集中・吸収・出会い・持続・燃焼というカテゴリーが、ヨガにおける一連の動作や思考とリンクし、私の関心を引いた。偉人の名言というものは、時代が移り変わっても色褪せず、どんな時代にあっても人として大切な生き方、真実を示してくれるものだ。人生の選択に迷ったときには、この本を開いて自分の原点を見つめなして、よりよい未来を切り開いていきたいと思う。

書籍情報

沖守弘『マザー・テレサ あふれる愛』講談社,1984
マザー・テレサの素顔とその活動を密着取材によって、まとめている。愛と感動を与え心が揺さぶられる本である。
齋藤孝『座右のゲーテ 壁に突き当たったときに開く本』光文社,2004

ゲーテの言葉をヒントに、壁に突き当たったときの『発想の技法』が紹介されている。悩んだ時に、ふと開いて自分と向き合う時間を与えてくれる本である。

新図書館システムの導入による効果と期待

札幌市立大学附属図書館 図書館専門員

平 紀子



① 「LIMEDIO」の導入

札幌市立大学附属図書館は、平成28年9月図書館システムのリプレイスにより、リコー社の「LIMEDIO」を導入しました。新機能を備えたシステムにより利用者サービス機能が充実しました。以下に新機能のポイントを紹介します。

② 「LDAP」による利用者認証の統合

従来、図書館は大学と異なる利用者認証を行っていましたが、LDAP（統合認証）による、ユーザ情報管理の一元化により、データベースの検索・登録・更新などが容易になりました。

③ 求める情報が「見つかる」と「広がる」 検索効率のアップへ

スペルチェック、ファセット（絞り込み）、キーワードサジェストなどの機能により、直感的なキーワード検索が可能になりました。利用者が求める情報について詳細が分からなくても、キーワード候補の予測立て、スペルチェックを行うシステム補完機能により、キーワードのゆらぎを考慮した単語で求める情報のヒットにつながり、検索の幅が広がりました。

また、検索結果の詳細画面にAmazonのボタンがあり、レビューがあれば、Amazonのサイトに行かずに同一画面での閲覧が可能です。そこでは書評、要旨、目次などをみることができます。

さらに、画面左側にあるファセットで絞り込み検索を行い、求める情報のフォーカスができます。シームレスなインターフェース、検索の精度や範囲が向上し、ヒットした情報をベースにしてさらに情報量を広げていくことが可能になりました。

④ 「検索画面」の充実

希望する資料が本学に所蔵されていない場合に、CiNii Books、CiNii Article、Google Scholarなどの他のデータベースで検索する際、あらためてキーワードを入力せずに同一インターフェイス（Discovery Interface）で検索を続けていくことで多様な関連情報を容易に入手するようになりました。

⑤ 「私の本棚」

従来のマイライブラリーにSDI（Selective Dissemination of Information・情報の選択的配信）機能が追加され、ユーザーが求め条件に合致する資料を図書館が受け入れた際、新着情報として表示されるようになり、図書館からの発信機能が向上しました。検索結果を「私の本棚」に保存して、必要に応じ再検索などの利用が可能になりました。

⑥ 業務分析機能の充実

LIMEDIOはユーザー・カスタマイズ帳票の作成ツール機能が優れており、データ集計コード設計上、属性の選択、分類の体系化などが容易なため、利用者支援サービスの改善に向けた業務効率化に繋がることが出来ます。業務システム面では、データを抽出し、必要な帳票の出力ができるようになり、従来、蔵書構成分析、利用分析などの業務を行う際に長い時間を要していましたが処理時間が短縮しました。

⑦ 学術情報の流通拠点を目指して

本学図書館は、地域連携活動として札幌芸術の森美術館、同工芸館などとの連携企画展、および札幌市アートブックフェアへの参画、また臨床現場で活躍される医療スタッフへの情報提供支援を行っています。常にエンドユーザーの視点に立ち、利用者支援サービスの向上に力を注ぎたいと考えています。

図書館では図書館システムのリプレイスによりWeb OPACの画面がリニュアルされ、利便性が向上しました。今後さらに大学がもつ学術情報資源の情報公開を通じて、学術情報流通拠点を目標に地域に貢献して参ります。

『夜と霧 新版』

ヴィクトール・E・フランクル [著]/池田香代子訳/みすず書房/2002芸術の森 2F一般図書 946/Fra桑園 一般図書 946/Fra
芸術の森キャンパス・ライブラリー司書

田中 敦子

著者ヴィクトール・E・フランクルは1905年ウィーンに生まれ、ウィーン大学で精神医学を学んだ後、精神科医として最愛の家族とともに平和で愛に満ちた生活を送っていました。しかしある日、ナチスにとらえられアウシュビッツへと送られます。本書はその強制収容所での体験を記したものです。

彼はそれまでに手に入れたものー幸せな生活、ささやかな財産、唯一の自分の名前ーそのすべてを奪われます。ただユダヤ人であるというそれだけの理由で。そしてその後愛する家族と再会することは叶いませんでした。

想像を絶する過酷な収容所生活に耐えて生還できたのは何故か。本書で徹底的に語られているのは人間性についてです。決して憎悪や復讐に走らず、許しあい尊厳を認め合うことを繰り返し語っています。

時間は流れ、歴史は遙か遠くの出来事と捉えがちですが、私たちが生きる現代も『絶望』はあります。それは子どもの貧困やいじめ、ブラックと呼ばれる理不尽で過酷な労働、あるいは突然襲う病など姿や形を変えて存在します。本書が1947年出版以降、長く読み継がれている理由のひとつに『絶望』への向き合い方があると思います。突然身に起こる過酷な運命に対し「どんな時にも人生には意味がある」と語る本書に何かを求める人が多いのかもしれません。

私は高校生の時に先生から「人生で3度読むべき本」と紹介されました。その時は霜山徳爾訳によるもので、後ろのページに掲載された白黒写真が恐ろしかったことを強く記憶しています。新版の池田香代子訳は読みやすく恐ろしい写真掲載もありません。学生時代にぜひ一度読んでほしいと思います。

私たち図書館員は、1冊でも多くの本を手に取ってもらえるように願い日々仕事をしています。あなたにとって特別な1冊に出会ってくださることを心から願っています。



『このあとどうしちゃおう』

ヨシタケシンスケ 著 ブロンズ新社 2016桑園 絵本 726.6/Yos

桑園キャンパス・ライブラリー司書

山本 逸香

みなさんが最後に絵本を読んだのはいつでしょうか？

私は図書館司書という仕事柄、絵本を手にとる機会は多いのですが、大人になってから絵本を読む機会は少ないのではないかでしょうか。この絵本は『生と死』がテーマです。死んだらどうなるのかを生きている間に考えるという、子供だけではなく大人も考えさせられる一冊としてご紹介したいと思います。

『このあとどうしちゃおう』は、おじいちゃんを亡くしたばかりの男の子が、おじいちゃんの部屋で一冊のノートを発見するところから始まります。そのノートには、「自分が将来死んだらどうなりたいか、どうしてほしいか」が詳細に描かれています。

死んでから生まれかわるまでのサイクルを想像してみたり、歩き慣れた靴や読みかけの本などの「天国に行くときの服装や持つていきたいもの」を描いてみたり、おじいちゃんが考える『死』には様々な希望があふれています。「天国ってきっとこんなところ」では、先に亡くなっているおばあちゃんが待っています。食べ終わったお皿を持っていくだけで100万円もらえるという子供みたいな発想のあるおじいちゃんにクリストさせられます。

ノートを見ているとこちらまで天国に行くのが楽しみになってきます。しかし、おじいちゃんは死ぬのが楽しみだったんだろうか？本当はその逆ですごく寂しくてすごく死ぬのが怖かったのかもしれない、と男の子は考えます。男の子は自分もノートを書こうと思い、自分が死んだ後のことを考えようとしましたが、生きているうちにやりたいことがたくさんあることに気がつきます。大人は文章に目がいきがちですが、イラストも細かいところまでユーモアが行き届いていて、何度も読んでも楽しめる作品です。

また、最後のページには読んだ人にしかわからないちょっとした発見もありますので、ご自分の目で楽しんでいただけたらと思います。

芸術の森キャンパス・ライブラリー 企画展示



『樹を旅する物語』

2016年7月11日(月) – 8月19日(金)



展示風景

芸術の森キャンパス・ライブラリーでは、『樹を旅する物語』を、2016年7月11日(月) – 8月19日(金)の期間開催いたしました。こちらは、隣接する札幌芸術の森の開園30周年記念に開催された『フランスの風景 樹をめぐる物語』との連動企画展示となります。

今回は樹の写真集や図鑑をはじめとして、小説や絵本などといったバラエティ豊かな資料を集めました。その結果、美術館出展作家関連書籍約60点、樹に関連する書籍約70点の合計約130点という中々のボリュームの資料を展示することができました。

今回の企画展示も装飾やポスターを学生アルバイトの協力を得て制作しました。写真をご覧いただけるとわかるかと思いますが、テーマの「樹」に合わせた展示を行いました。展示POPをすべて葉っぱの形にし、中心に木のオブジェを飾りました。細かい作業もあり非常に大変でしたが、学生アルバイトをはじめとしたスタッフの協力や苦労の甲斐もあり、来館者の多くが展示コーナーで足を止めて資料を手に取っていました。今回は、展示資料の中でも普段あまり貸し出されない資料が何度も貸し出されていたことが印象的でした。その点から、今回の展示では普段図書館を利用する上で、目にする機会が少ないジャンルの本を手に取っていただける良いきっかけになったのではないかと感じております。

企画展示開催中の学外からの来館者数は217名でした。企画展示を

目的として来館していない方も展示コーナーで足を止めていることが数多く見受けられました。学内の利用者の反応と併せて考えると、やはり今回の装飾は見た目の良さだけではなく、紹介POPとしての役割を普段同様、またはそれ以上に果たしているのではないかという印象を受けました。

利用者の、特にデザイン学部の学生は環境の観点から樹に触れる機会がほかの大学の学生より多いかと思います。学生が登下校中や授業で樹や木材に触れる際に、この企画展示で出会った本が役に立ち、なおかつ樹に対する学びのきっかけとなっていました幸いです。

(芸術の森キャンパス・ライブラリー 熊木)



葉っぱの形の展示POP

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間: 2015/10/1 ~ 2016/9/30

図書貸出ランキング

- 芸術の森 -

AV視聴ランキング

- No.1** 3ds Maxモデリング:ゲームキャラクター、乗り物、環境・シーンの作成 Andrew Gahan著/Bスプラウト訳/ボーンデジタル/2012. 芸術の森 2F 一般図書 417/Har
- No.2** TOEICテスト新公式問題集 vol. 6 Educational Testing Service著/国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会/2015. 芸術の森 2F 一般図書 830.79/Edu/6
- No.3** 伝わるインフォグラフィックス リンクアップ、グラフィック社編集部編/グラフィック社/2014. 芸術の森 2F 一般図書 727/Rin
- No.4** プロのフライヤーレイアウト・映画・アート・音楽・演劇のデザインアイデア フレア、グラフィック社編集部編/グラフィック社/2014. 芸術の森 2F 一般図書 674.7/Fur
- No.5** インフォグラフィックス:情報をデザインする視点と表現 木村博之著/誠文堂新光社/2010. 芸術の森 2F 一般図書 727/Kim
- No.6** 火花 又吉直樹著/文藝春秋/2015. 芸術の森 2F 一般図書 913.6/Mat
- No.7** After Effects標準テクニックブック:for After Effects CS6/CC 石坂アツシ、大河原浩一、笠原涼子共著/ビー・エヌ・エヌ新社/2014. 芸術の森 2F 一般図書 007.642/lsh
- No.8** ようこそ建築学科へ!:建築的・学生生活のススメ 松田達[ほか]編著/学芸出版社/2014. 芸術の森 2F 一般図書 520.7/Mat
- No.9** ジェネラティブ・アート:Processingによる実践ガイド 普及版 マット・ピアソン著/沖野介訳/ビー・エヌ・エヌ新社/2014. 芸術の森 2F 一般図書 007.642/Pea
- No.10** 近代から現代までのデザイン史入門:1750-2000年 トマス・ハウフ著/斎藤訳/晃洋書房/2007. 芸術の森 2F 一般図書 757.02/Hau

総評

インフォグラフィックスやレイアウトなど、デザイン関連の図書が貸出の大半を占める中、昨年大ヒットの芥川賞受賞作・又吉直樹さんの「火花」がランクイン。勉強のための図書館利用はもちろんですが、小説や雑誌なども楽しみつつ教養の幅を広げましょう。読みたい本の購入リクエストもできますよ(芸術の森キャンパス・ライブラリー 司書 川口)

図書貸出ランキング

- 桑園 -

AV視聴ランキング

- No.1** 脳・神経(病気がみえる: v.7) 医療情報科学研究所編/Medic Media/2013. 桑園 一般図書 492/Iry/7
- No.2** ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第2版 佐世正勝、石村由利子編/医学書院/2012. 桑園 一般図書/シラバス図書 492.924/Sas
- No.3** 認知症高齢者の看護 中島紀恵子責任編集/太田信久子、奥野茂代、水谷信子編集/医薬業出版/2007. 桑園 一般図書 492.929/Nak
- No.4** 消化器 第3版(病気がみえる:v.1) 医療情報科学研究所編/Medic Media/2008. 桑園 一般図書 492/Iry/1
- No.5** 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第2版 黒澤彩子、浅野みどり編集/医学書院/2012. 桑園 一般図書. 桑園 一般図書 492.925/Ish
- No.6** ゴードン博士の看護診断アセスメント指針:よくわかる機能的健康/パターン 第2版 マージョリー・ゴードン著/早野真佐子訳/照林社/2007. 桑園 一般図書 492.913/Gor
- No.7** 個別性を重視した認知症患者のケア 改訂版 松下正明、金川克子監修/医学芸術社/2007. 桑園 一般図書 492.929/Kob
- No.8** 質的研究への挑戦 第2版 舟島なみ著/医学書院/2009. 桑園 一般図書/シラバス図書 492.907/Fun
- No.9** 生活機能からみた老年看護過程:+病態・生活機能関連図 山田律子、井出訓編集/医学書院/2008. 桑園 一般図書 492.929/Yam
- No.10** ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 佐世正勝、石村由利子編/医学書院/2009. 桑園 一般図書 492.924/Sas

総評

例年どおり看護過程に関わる資料が上位を占めています。今年度は「病気がみえる」シリーズから2冊がランクインしました。「病気がみえる」はその名の通り、図版が多くポイントがわかりやすい医学書として、特に実習・試験期間中は大人気です。(桑園キャンパス・ライブラリー 司書 田中)

- No.1** 桐島、部活やめるってよ 吉田大介監督/朝霧ヨウ原作//パップ(発売)/2013. 芸術の森 1F AV 778/Kir

- No.2** 秒速5センチメートル 新海誠原作・脚本・監督/コミックス・ウェーブ・フィルム/2008. 芸術の森 1F AV 778.77/Byo

- No.3** Paprika = パプリカ 今敏監督/筒井康隆原作/水上清貴脚本/ソニー・ピクチャーズエンターテインメント/2007. 芸術の森 1F AV 778.77/Pap

- No.4** 八日目の蝉 スタンダード・エディション 成島出監督/奥寺佐渡子脚本/角田光代原作/アミューズソフト/2011. 芸術の森 1F AV 778/Yok

- No.5** 耳をすませば 宮崎駿プロデュース・脚本・絵コンテ/近藤喜文監督/スタジオジブリ制作/スタジオジブリ(制作)/ブリヂストンホームエンターテイメント(発売)/1995. 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi

- No.6** 告白 完全版 中島哲也監督・脚本/渋かなえ原作/東宝(発売)/「告白」制作委員会/2011. 芸術の森 1F AV 778/Kok

- No.7** A New Hope (Star Wars:Episode 4) (Star Wars trilogy) written and directed by George Lucas 20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン/2004. 芸術の森 1F AV 778/Sta/4

- No.8** Midnight in Paris written and directed by Woody Allen/角川書店 [distributor]/2012. 芸術の森 1F AV 778/Mid

- No.9** ショートショート 宮崎駿、近藤喜文、百瀬義行[ほか]監督・演出/ブリヂストンホームエンターテイメント(発売)/2005. 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi

- No.10** バケモノの子 細田守監督/パップ/2015. 芸術の森 1F AV 787.77/Bak

総評

今年、話題になった長編アニメーション映画「君の名は。」を手掛けた新海誠氏が、原作・脚本・監督の「秒速5センチメートル」が2位にランクインしています。授業の空き時間にご覧できるような短編作品も多数所蔵していますので是非ご利用ください。(芸術の森キャンパス・ライブラリー 司書 菅原)

- No.1** 分娩1~4期の看護実践 (看護教育シリーズ、目で見る母性看護:vol.6/分娩経過のアセスメントと看護) 笹木葉子原案/医学映像教育センター/2007. 桑園 AV 492.924/Med/6

- No.2** ユマニチュード:優しさを伝えるケア技術 IGM Japon/医学書院/2014. 桑園 AV 369.26/Hum

- No.3** 看護の達人! 楽しく学んでスキルアップ!! 企画・制作ケアネット/ケアネット/2010. 桑園 AV 492.9/Kan

- No.4** 入院時の健康診査 (看護教育シリーズ、目で見る母性看護:vol.4/分娩経過のアセスメントと看護) 遠藤紀子原案/医学映像教育センター/2007. 桑園 AV 492.924/Med/4

- No.5** 全身清拭・陰部洗浄 (看護教育シリーズ、実践!看護技術シリーズ/清潔の援助技術編:vol. 2) 医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2010. 桑園 AV 492.91/Jis/2

- No.6** 産褥早期の母親へのアセスメントと支援 (看護教育シリーズ、産褥経過のアセスメントと支援の実際:vol.2) 医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2011. 桑園 AV 495.8/San/1

- No.7** 出産直後からの育児支援 (看護教育シリーズ、産褥経過のアセスメントと支援の実際:vol.1) 医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2011. 桑園 AV 495.8/San/2

- No.8** 指圧・マッサージ (看護教育シリーズ、看護ケアに役立つ:vol. 2) 医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2005. 桑園 AV 492.9/Kan/2

- No.9** 出生後一週間 (看護技術学習支援ビデオシリーズ:母性看護学:5/新生児のアセスメントとケア:2) 日本看護協会企画/日本看護協会/1998. 桑園 AV 492.924/Bos/5

- No.10** 分娩進行の観察とサポートイブケア (看護教育シリーズ、目で見る母性看護:vol.5/分娩経過のアセスメントと看護) 伊藤道子原案/医学映像教育センター/2007. 桑園 AV 492.924/Med/5

総評

毎年人気のある「看護教育シリーズ」ですが、今年は特に多く、7本もランクインしました。中でも出産などに関わる母性看護のDVDが多く貸出されています。これらのシリーズは各章20~30分で視聴することができ、講義や実習で忙しい学生の皆さんの資料選びのコツが窺えます。(桑園キャンパス・ライブラリー 司書 田中)